

CRESCO 

2022年3月期 通期 連結

決算ハイライト (記者会見用)

2022年5月10日

* 会社ロゴの変更

変更の経緯

2021年6月： 当社創業者が取締役を退任し、次世代に経営を託す
2022年4月： 社長交代 & 東証市場第1部からプライム市場へ移行

2022年4月から「第2創業期」へ・・・

CRESCO 

- * デザインコンセプト : **Challenger wildcard**
- * モチーフ : 一般的にワイルドカード記号として用いられる「*」
- * カラー : アドバンス・オレンジ ■ 力強い前進
 トラスト・ブラック ■ 確かな信頼
- * 意味 : あらゆる対象にマッチするワイルドカードのように、
 枠にとらわれない考え方や開発に挑戦し、社会を前進・成長させる姿



1 決算のポイント



[単位：百万円未満切捨]

- 売上高 : 当社の「中期経営計画 2023」に則って
 - ・ グループ連携の強化を中心とした事業の拡大を強力に推進した
 - ・ 第2四半期連結会計期間から「(株)OEC」を連結の範囲に含めた
- 利益 : 増収に加え、
新型コロナウイルス禍を経たニューノーマルの時代に即し、クレスコグループ全体で業務効率が改善

	修正前	修正後			<参考> 前期実績
	21/5/10 予想	22/2/28 予想	増減額	増減率	
通期 売上高	42,400	44,000	1,600	103.8%	39,706
売上総利益					7,199 (18.1%)
営業利益	3,850 (9.1%)	4,440 (10.1%)	590	115.3%	3,484 (8.8%)
経常利益	4,200 (9.9%)	4,600 (10.5%)	400	109.5%	4,101 (10.3%)
純利益	2,850 (6.7%)	3,180 (7.2%)	330	111.6%	2,634 (6.6%)
EPS 円/株	135.58	151.14	15.56		125.43

- 配当 : 配当方針と現下の経営状況を鑑み、期末配当を4円増配。

	前回公表	今回公表	増減	<参考> 前期実績
	21/5/10 予想	22/2/28 予想		
中間	20円			18円
期末	20円	24円	4円	20円
年間	40円	44円	4円	38円
配当性向	29.5%	28.6%	-0.9%	30.3%

1 決算のポイント 1.2. 売上高・利益

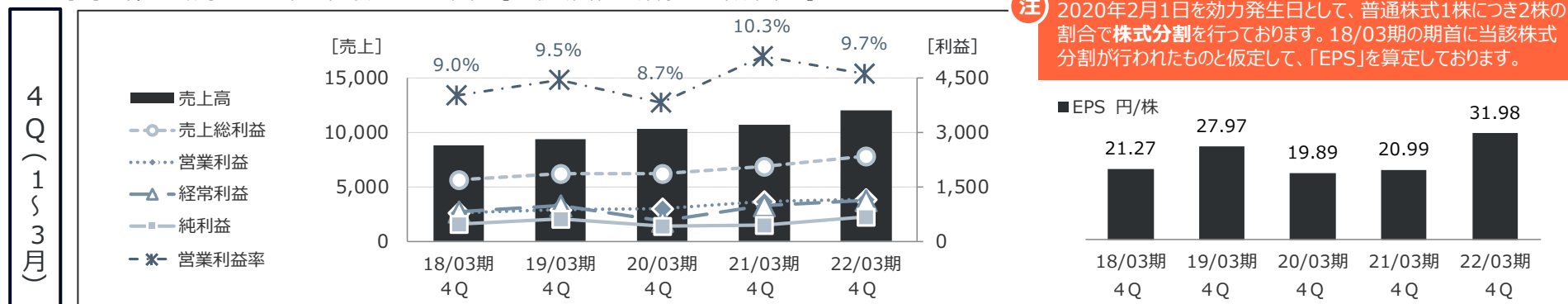
[単位：百万円未満切捨]

- 経済活動の正常化に向けた動きは旺盛。デジタル変革を背景に、顧客のIT投資は順調に増加。
- 業種別に濃淡はあるものの、主要顧客を中心に売上が増加。11.9%の二桁増収。
- 営業利益は27.9%、経常利益は16.6%、当期純利益は22.9%の増益。連続で過去最高益を更新。
- 増収効果や販管費の未消化等により、営業利益率は10.0%（前年同期8.8%）で、目標値「10%」を維持。

■ 売上高	… 47億44百万円の増収(前年同期比 11.9%増)	■ 経常利益	… 6億81百万円の増益(前年同期比 16.6%増)
■ 営業利益	… 9億73百万円の増益(前年同期比 27.9%増)	■ 当期純利益	… 6億2百万円の増益(前年同期比 22.9%増)

	20/03期		21/03期		22/03期		前年 同期比	対通期 達成率	通期 業績予想	
									22/2/28 予想	前年 同期比
通期	売上高	39,337	39,706	44,450	111.9%	101.0%	44,000	110.8%		
	売上総利益	7,246 (18.4%)	7,199 (18.1%)	8,698 (19.6%)	120.8%					
	営業利益	3,556 (9.0%)	3,484 (8.8%)	4,457 (10.0%)	127.9%	100.4%	4,440 (10.1%)	127.4%		
	経常利益	3,712 (9.4%)	4,101 (10.3%)	4,782 (10.8%)	116.6%	104.0%	4,600 (10.5%)	112.2%		
	純利益	2,421 (6.2%)	2,634 (6.6%)	3,236 (7.3%)	122.9%	101.8%	3,180 (7.2%)	120.7%		
	EPS 円/株	114.30	125.43	153.92			151.14			

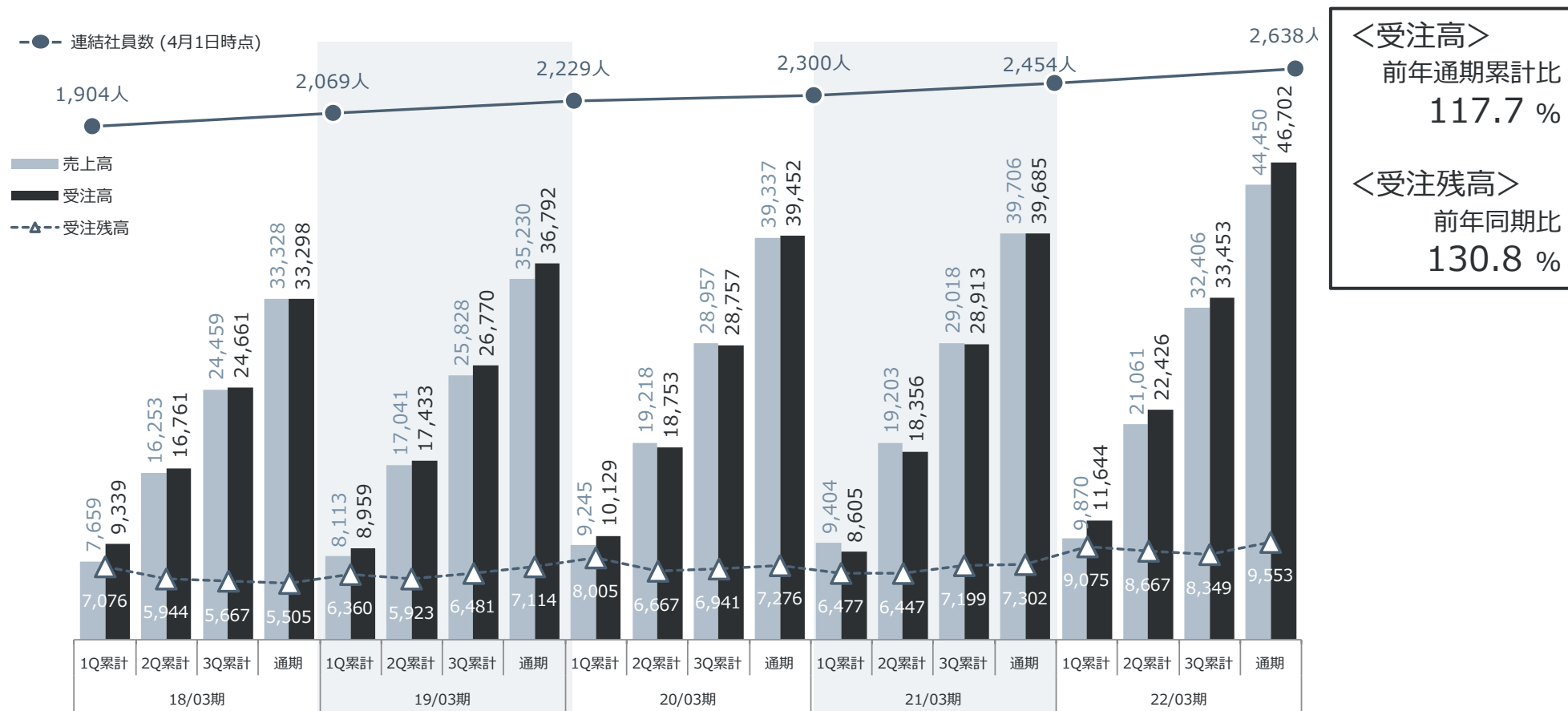
【注】（ ）内の数字は各々の利益率を表します。「純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」です。



1 決算のポイント 1.3. 受注高・受注残高

[単位：百万円未満切捨]

- 受注高と受注残高は、新型コロナウイルス禍が続く中で業種別に濃淡はあるものの、順調な伸び。
- 2020年度のIT投資抑制の反動や、経済活動正常化に向けた動きが、デジタル変革を後押し。



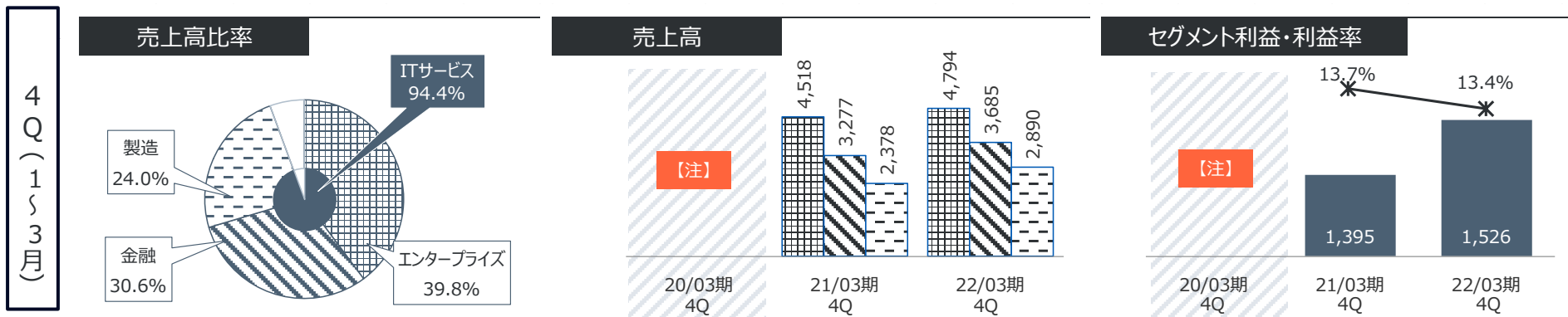
1 決算のポイント 1.4. セグメント別売上高・利益：ITサービス事業

[単位：百万円未満切捨]

- 売上高は、423億42百万円。「エンタープライズ」「金融」「製造」の全サブセグメントが伸長し、10.7%増収。
- セグメント利益は、売上高増加や生産性向上、不採算プロジェクトの極小化等により、23.4%増益。

- エンタープライズ … 「人材紹介・人材派遣」「運輸」「建設・不動産」「旅行・ホテル」の各分野の受注回復、および、第2四半期から「(株)OEC」を連結したことに伴う「医療・ヘルスケア」分野での売上高の増加により、6.7%増収。
- 金融 … 「保険」分野の大型案件受注や証券・クレジットカード等「その他」分野におけるIT投資の拡大、および、「(株)OEC」の連結効果による「その他」分野の売上高増加により、10.7%増収。
- 製造 … 新型コロナウイルス禍に伴う半導体不足により「自動車・輸送機器」分野では売上高が前年同期とほぼ同水準となったものの、「機械・エレクトロニクス」分野において先行投資を目的とする案件の増加および「(株)OEC」の連結効果により、18.4%の増収。

			20/03期	21/03期	22/03期	前年同期比
通期	ITサービス	売上高	[注]	17,075	18,219	106.7%
		金融		12,360	13,689	110.7%
		製造		8,809	10,433	118.4%
	セグメント利益(率)	38,246	42,342	110.7%		
			4,635 (12.1%)	5,718 (13.5%)	123.4%	



[注] 2020年3月期は、新セグメントで数値算出しておりません。

1 決算のポイント 1.5. セグメント別売上高・利益：デジタルソリューション事業

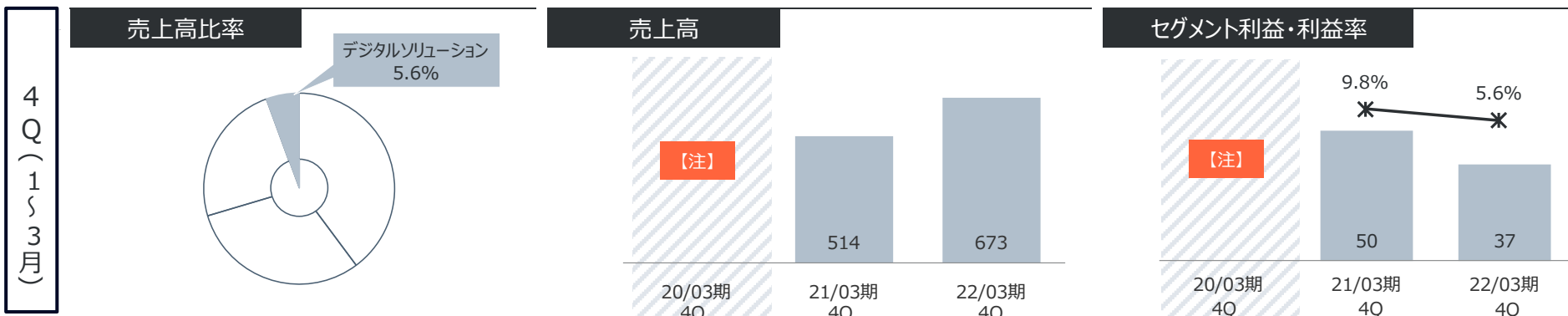
[単位：百万円未満切捨]

- 売上高は、21億7百万円。クラウドサービス「Creage(クレーージュ)」やRPAライセンスの販売増加の他、子会社における大型ソリューション案件の受注により、44.4%増収。
- セグメント利益は、上記増収効果により、前年比15.1%増益。

<主な製品・サービス名>

- Creage：クラウド関連サービス
- UiPath：RPA関連サービス
- アノテーション：AI関連サービス
- 教育・セミナー：AI、クラウド、RPAなど

通期	デジタルソリューション	20/03期		21/03期		22/03期		前年同期比
		売上高	[注]	1,459	2,107	144.4%		
	セグメント利益(率)	[注]	126 (8.6%)	145 (6.9%)	115.1%			



[注] 2020年3月期は、新セグメントで数値算出しておりません。



2 中期経営計画の進捗状況

公表用資料から抜粋

クレスコグループは2030年に向けた経営ビジョン「CRESCO Group Ambition 2030」を掲げました。経営ビジョンを体現する行動の起点として「CRESCO Group 行動指針」を定めました。

- CRESCO Group Ambition 2030 -



【注】コーポレートロゴ変更に伴い、イメージ画像を変更しました。内容に変更はありません。

- CRESCO Group 行動指針 -





公表用資料から抜粋

経営ビジョン実現に向けて2021年から2023年までの3か年の中期経営計画「中計2023」を策定いたしました。「中計2023」ではコアビジネス推進のための3つの基本戦略にてビジネスの土台を強化しつつ、新たなビジネスの柱を生み出すための3つの重点戦略に取り組んでまいります。

重点戦略 新たなビジネスの柱を生み出すために

デジタルソリューションの強化

- デジタルソリューション売上の倍増
- 新規デジタルソリューションの拡充

機動的経営の進化

- 「DX銘柄」認定の獲得
- グループ連携の強化による事業拡大

人間中心経営の深化

- 「健康経営優良法人」上位企業へ
- 次世代人財育成の充実

基本戦略 コアビジネス領域をより強固なものに

ITサービスの拡大

- エンタープライズ/金融/製造セグメントごとに定めた施策に基づく事業拡大

品質の強化

- 新技術/ニーズ変化に対応したマネジメントプロセスの継続的な改善と実践

技術の強化

- 新技術および重点技術（AI、クラウド、アジャイル）によるビジネス拡大

クレスコはESGを企業が認識すべき「社会から企業への期待」と捉え、取り組んでまいります
「ESGに対する当社の考えと取り組み状況」：https://www.cresco.co.jp/ir/group_business/esg.html



重点戦略 新たなビジネスの柱を生み出すために

デジタルソリューションの強化

1Q	<ul style="list-style-type: none"> デジタルソリューション推進部門として、「ビジネスイネーブルメントサービスユニット」を設置 クレスコのデジタルソリューションブランドの再整理を開始
2Q	<ul style="list-style-type: none"> デジタルソリューションサイトを公開 クラウドマネージドサービスを、Azure対応にバージョンアップ
3Q	<ul style="list-style-type: none"> IaaS型クラウドサービス「SOROBAN」の販売代理店契約を締結 2年連続で、当社社員が「UiPath Japan MVP 2021」に認定 「UiPath Reboot Work Festival Japan 2021」でブース出展と講演を実施
4Q	<ul style="list-style-type: none"> クラウド環境における運用最適化を進める「Operation+ オートメーションプラン」「Account+ CloudHealthオプション」をリリース

機動的経営の深化

1Q	<ul style="list-style-type: none"> 経済産業省のDX認定制度「DX認定事業者」の認定を取得 「株式会社OEC」社を子会社化
2Q	—
3Q	<ul style="list-style-type: none"> 東証新市場区分「プライム市場」を選択および決定 2022年4月の社長交代を発表
4Q	<ul style="list-style-type: none"> 2022/2/28に、コーポレートブランドロゴの変更等をプレスリリース

人間中心経営の進化

1Q	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における働き方改革を推進(テレワーク推進、ワークプレイス整備、ワクチン休暇の導入) 認定試験受験推進企業として「2020年度優秀受験団体」表彰を受賞
2Q	<ul style="list-style-type: none"> 「ニューノーマルな交流拠点」として、多目的スタジオを設置 都立公立小中学校のデジタル活用支援の取り組みに参加
3Q	<ul style="list-style-type: none"> オンラインイベント「クレスコフェア2021」「Cresco Adventcalendar2021」を開催 「第2回日本眼科AI学会総会 眼科AIコンテスト」で当社社員が入賞 組込みシステム技術協会「ET & IoT 2021」で当社社員が講演を実施
4Q	<ul style="list-style-type: none"> 2022/3/16に、「健康経営優良法人2022」に認定(801~850位/2869社)

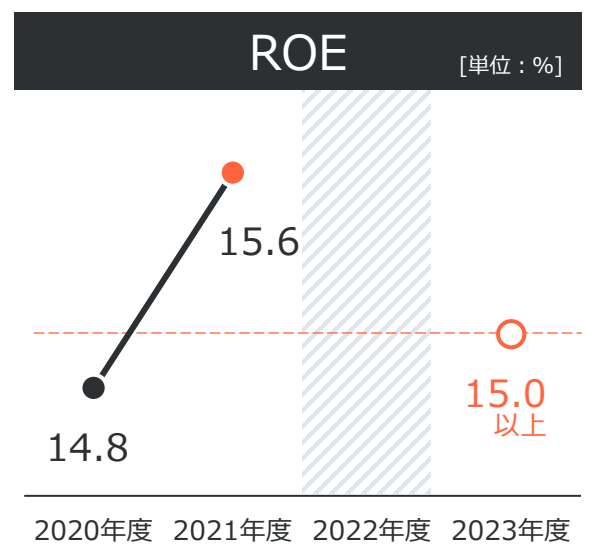
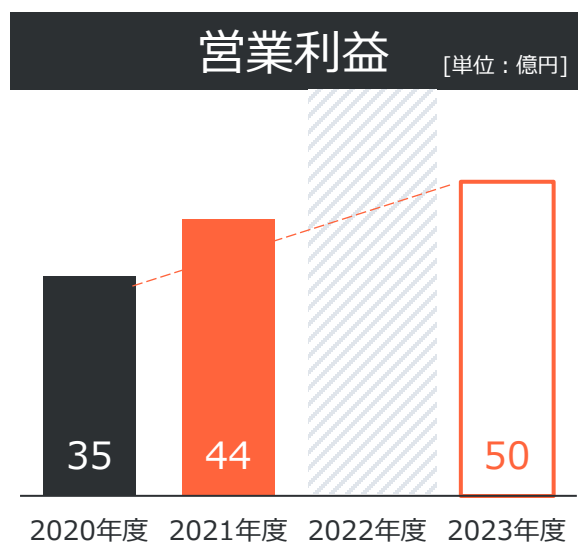
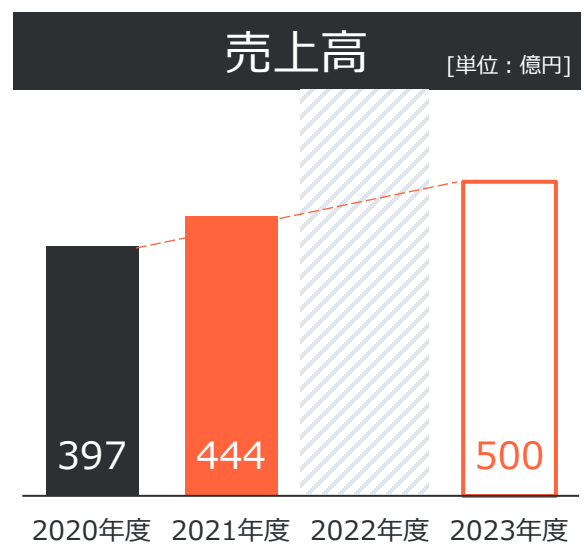
基本戦略 コアビジネス領域をより強固なものに

ITサービスの拡大	1Q	<ul style="list-style-type: none"> 新規取引先開拓に向けた営業人員の増強
	2Q	—
	3Q	<ul style="list-style-type: none"> クレスコベトナムの開発体制を増強（技術者稼働数 … 2Q:60名 → 3Q:90名）
	4Q	<ul style="list-style-type: none"> ソリューションングプロセス活用による新規提案の推進
品質の強化	1Q	<ul style="list-style-type: none"> PMO日本支部主催「PMI日本フォーラム2021」で当社社員が講演を実施 車載組込みシステムフォーラム(ASIF)幹事会社へ選出
	2Q	—
	3Q	<ul style="list-style-type: none"> 品質・プロジェクト管理教育の刷新
	4Q	<ul style="list-style-type: none"> ISMSの継続審査・拡大審査が認証
技術の強化	1Q	<ul style="list-style-type: none"> 「次世代を担う人材育成支援およびAI技術に関する研究促進」で北海道大学と協力を強化 マイクロソフト社パートナー「Goldコンピテンシー」認定の取得
	2Q	<ul style="list-style-type: none"> 画像処理AI学習データ作成時のアノテーション作業負荷を軽減する手法の特許取得
	3Q	<ul style="list-style-type: none"> 名古屋大学と、組込みセキュリティに関する共同研究を開始 角膜形状解析画像の機械学習を用いた分類に関する論文を複数掲載
	4Q	<ul style="list-style-type: none"> 「スクラムマスターとプロダクトオーナーのためのEXINハンドブック」日本語版の翻訳テクニカルレビューアとして当社社員が参画 「IBM Champions Program」の「Data & AI部門」で、当社社員が「IBM Champion 2022」に認定

2 中期経営計画の進捗状況  2.5. 進捗状況：経営目標

公表用資料から抜粋

経営目標	2020年度実績	2023年度目標値
連結売上高	397億円	> 500億円
連結営業利益額	35億円	> 50億円
ROE	14.8%	> 15%以上





3 2023年3月期の見通し



ロシア・ウクライナ紛争や新型コロナウイルス禍は懸念材料だが、影響は限定的。
デジタル変革(DX)推進の潮流は変わらず、システム開発の需要は引き続き旺盛。

- 新型コロナウイルスの新規感染者は高止まりしているものの、経済活動の正常化に向けた動きが牽引、ロシア・ウクライナ紛争の影響は避けられないものの、デジタル変革(DX)を背景に、**受注は増加傾向**。
- ワクチンの追加接種を含む感染対策やニューノーマルが定着し、**事業活動への支障は無し**。
- DX関連の**新たなサービスや製品の開発、IT人材の育成・獲得、自己イノベーションが重要課題**。

【ご参考： 景気判断の調査等】

政府による4月の月例経済報告 [2022年4月21日発表]

「景気は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が緩和される中で、持ち直しの動きがみられる。」旨の判断。

※ ただし、ウクライナ情勢等による不透明感がみられる中で、原材料価格の上昇や金融資本市場の変動、供給面での制約等による下振れリスクに十分注意する必要がある。
また、感染症による影響を注視する必要がある。

2022年4月Quick短観 [2022年4月15日発表]

製造業の業況判断指数(DI)は前月調査から1ポイント改善のプラス14。改善は3カ月ぶり。

金融を含む全産業DIは前月から4ポイント改善のプラス19。

2022年3月の日銀短観 [2022年4月1日発表]

代表的な指標である大企業・製造業の「最近」業況判断指数(DI)は、前回調査から1ポイント悪化しプラス14、「先行き」DIはプラス9と、「最近」のプラス144から5ポイント悪化の見込み。

大企業・非製造業の「最近」DIも前回調査から1ポイント悪化しプラス9、「先行き」DIはプラス7と、「最近」のプラス9から2ポイント悪化の見込み。

IDC Japanの国内ITサービス市場予測(抜粋&要約) [2022年3月3日発表]

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大の影響が一部で続いたものの、市場全体としては順調に回復し、プラス成長に転換。

2022年の国内ITサービス市場は、2021年に回復が遅れた分野の反動増が見込まれ、2021年と同様堅調に推移。

2021～26年の年間平均成長率(CAGR: Compound Annual Growth Rate)は2.8%で推移し、2026年には市場規模が6兆7,410億円になると予測。



- クレスコグループで連携し、関係者の感染状況の確認や情報収集、各種施策の検討および運用を継続中。
- お取引先様も含めたテレワークの推進。在宅勤務、リモート開発の継続。
- 政府や自治体の要請(緊急事態宣言を含む)に準じた施策を適宜アップデートし、社内に徹底。
- 在宅勤務が主となる社員には在宅勤務にかかる光熱費・通信費等の補助のため「在宅勤務手当」を支給し、通勤が主となる社員には通勤等の心身負担軽減のため、「通勤者支援手当」を支給。
- **新型コロナワクチン接種時および副反応時の「特別休暇制度」を導入。**
新型コロナワクチンの3回目接種に対応し、「ワクチン休暇」の日数を追加付与。
就業時間中に接種した場合は、「みなし勤務」とする柔軟な措置も適用。
新型コロナウイルス感染により不就業となる場合は、失効した年次有給休暇の利用許容。
- **多様な働き方の実現にむけたDX推進、ワークプレイスの整備**
社内決裁書類等の電子化拡大、電子ワークフロー推進。
ワークスタイル変革を見据えたオフィススペース、レイアウトの変更。
- 「新型コロナウイルスに関する当社の対応について」は、ホームページで随時更新。

【基本対応方針】

- (1) 従業員等およびその家族の生命の安全・健康を確保する。
- (2) 事業に与える被害の最小化を図る。
- (3) お客様・取引先・株主等に悪影響を及ぼさない。
- (4) 地域経済の早期安定化へ貢献する。
- (5) 各種対応の際は、常に人道面で配慮する。

2022年度も対応は継続

- 新型コロナウイルス禍やロシア・ウクライナ紛争が、クレスコグループの業績に及ぼす影響について『**精緻に把握することが困難**』。
- 現時点における**入手可能かつ合理的な情報による判断**および、**現状の認識**による業績見通し。
 - ① 新型コロナウイルス禍の収束時期は不透明ながら、**影響は限定的であり、事業に大きな支障はない**。
 - ・ 新型コロナウイルス禍の収束が当面難しいこと、新たな変異株の発生・流行に起因する景気の下振れリスクが、依然拭い切れないことに変わりはない。
 - ・ 足元では、3回目のワクチン接種を含む感染の予防対策に重点を置き、できるだけ制約のない日常生活と経済活動に戻していくための取り組みが浸透しつつある。
 - ・ オンラインや対面による営業活動やリモート開発、在宅勤務も常態化しており、2022年度における新型コロナウイルス禍の影響は限定的であり、事業への大きな支障はない、と認識。
 - ② ロシア・ウクライナ紛争の状況次第で、お客様のビジネスに大きな影響が生じ、IT投資にも影響が及ぶ。
 - ・ ロシア・ウクライナ紛争は「戦争」に発展し、2国間のみならず、欧米や中国を巻き込んだ国際的な問題。
 - ・ 関係各国による経済制裁や輸出入制限に起因するサプライチェーンの悪化も顕在化しており、予断を許さない状況。
 - ・ ロシア・ウクライナ紛争による情勢の変化次第では、景気が悪化し、お客様のビジネスにも大きな影響が生じて、IT投資が下振れする可能性あり、と認識。
 - ・ 景気動向や紛争の情勢を注視し、前広で機動的な営業活動を行い、常に臨機応変に当該危機に対応する。
 - ③ 景況感、先行き不透明感はあるものの、基本的には、**IT投資は改善傾向が継続し、受注は増加する**。
 - ・ 景況感、先行き不透明感はあるもの、2021年度におけるIT投資遅れの反動やDXの更なる進展が起きるものと予想。
 - ・ 新型コロナウイルス禍がもたらしたニューノーマルへの対応ニーズは、事業変革や競争力強化などを実現する「デジタル変革」の追い風となり、今後も受注は増加する見込み。
 - ・ 多様化、複雑化するニーズをしっかりと取り込み、自らも競争優位性を確保するイノベーションを実現し、着実な受注の獲得に努める。



[単位：百万円未満切捨]

- **売上高475億円(6.9%増収)、営業利益47億円(6.6%増益)、経常利益51億円(7.7%増益)**と予想。
- 業績予想における新型コロナウイルス禍やロシア・ウクライナ紛争の状況等を含む仮定については、現時点における入手可能かつ合理的な情報による判断に基づいているが、引き続き動向を注視。
- 今後、仮定の誤りにより開示すべき事象が発生した場合、速やかに公表。

2 Q 累 計	22/03期						23/03期	
	22/2/28 予想	前年 同期比	実績	前年 同期比	達成率	22/5/10 予想	前年 同期比	
	売上高	20,500	106.8%	21,061	109.7%	102.7%	22,840	108.4%
売上総利益			4,071 (19.3%)	125.1%				
営業利益	1,720 (8.4%)	125.8%	2,017 (9.6%)	147.6%	117.3%	2,090 (9.2%)	103.6%	
経常利益	1,900 (9.3%)	103.0%	2,223 (10.6%)	120.5%	117.0%	2,340 (10.2%)	105.2%	
純利益	1,380 (6.7%)	105.5%	1,606 (7.6%)	122.8%	116.4%	1,420 (6.2%)	88.4%	
EPS 円/株	65.65		76.44			67.49		

通 期	22/03期						23/03期	
	22/2/28 予想	前年 同期比	実績	前年 同期比	達成率	22/5/10 予想	前年 同期比	
	売上高	44,000	110.8%	44,450	111.9%	101.0%	47,500	106.9%
売上総利益			8,698 (19.6%)	120.8%				
営業利益	4,440 (10.1%)	127.4%	4,457 (10.0%)	127.9%	100.4%	4,750 (10.0%)	106.6%	
経常利益	4,600 (10.5%)	112.2%	4,782 (10.8%)	116.6%	104.0%	5,150 (10.8%)	107.7%	
純利益	3,180 (7.2%)	120.7%	3,236 (7.3%)	122.9%	101.8%	3,350 (7.1%)	103.5%	
EPS 円/株	151.14		153.92			159.22		

【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。「純利益」は「親会社に帰属する当期純利益」です。

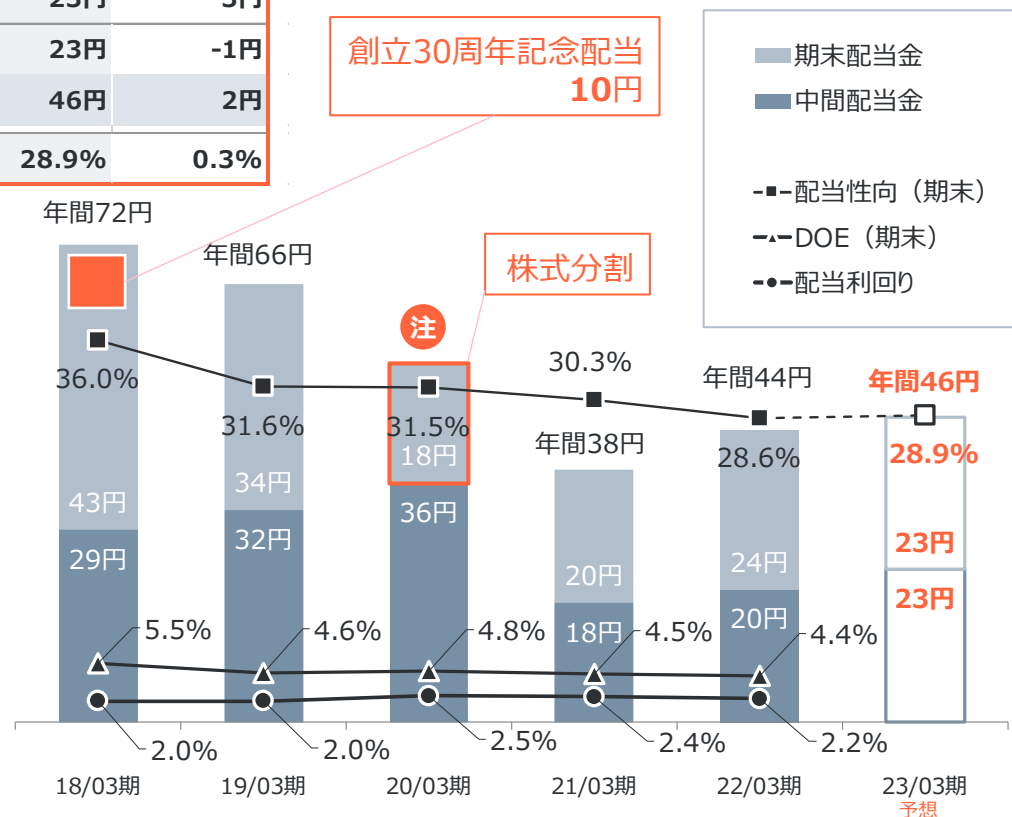


- 株主還元方針に則った配当を継続。2023年3月の配当目標は、**2円増加の46円**。

	20/03期	21/03期	22/03期	23/03期	
	実績	実績	実績	22/5/10 予想	増減
中間	36円	18円	20円	23円	3円
期末	18円	20円	24円	23円	-1円
年間	注	38円	44円	46円	2円
配当性向	31.5%	30.3%	28.6%	28.9%	0.3%
配当利回り	2.5%	2.4%	2.2%		
DOE	4.8%	4.5%	4.4%		
配当金の総額	750百万円	798百万円	925百万円		

【配当金の総額：百万円未満切捨】

- 株主還元方針
- ▶ 当社は株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけ、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を維持することを基本方針としております。
 - ▶ 特段の株主優待は行っていません。
 - ▶ 配当に関しましては、原則、**連結経常利益**をもとに、特別損益を零とした場合に算出される**親会社に帰属する当期純利益**の30%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。



- 注** 2020年2月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

- **18/03期中間～20/3期中間**は分割前の実際の配当金の額を記載しております。
- 20/03期の合計は、株式分割の実施により単純計算ができないため記載していません。



1. お客様とのリレーションシップの強化および新規顧客の獲得
2. デジタルソリューションビジネスの拡大と新技術の研究・開発
3. 人材の獲得と開発体制の強化
4. M&Aの推進とブランディング強化
5. DX推進と機動的経営の実現
6. 安心・感動を生み出す品質強化
7. ESG経営の推進とサステナビリティに関する取り組み
8. 健康経営の推進
9. 働き方改革と健全な労働環境づくり
10. ダイバーシティへの取り組み

✦ 新社長の紹介

- * 氏名 : 富永 宏 (とみながひろし)
- * 年齢 : 55歳
- * 経歴 : 1990年 当社入社 (通信制御系のSE)
2006年 部長 (インフラ系)
2009年 事業部長
2013年 取締役
2017年 取締役 常務執行役員
2021年 取締役 専務執行役員
- * 出身地 : 山口県
- * 大切にしている言葉 : 感謝





ご参考

ご参考  1) 連結子会社の変遷

	2018年3月期				2019年3月期				2020年3月期				2021年3月期				2022年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
クレスコ・イー・ソリューション	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコワイヤレス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アイオス 【※2】【※6】【※8】【※11】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコ九州 【※9】	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
クレスコ北陸	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコ上海 【※1】	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
シーサリー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコ・デジタルテクノロジーズ 【※14】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
メクゼス 【※4】【※5】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エヌシステム	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ネクサス 【※3】	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アルス 【※7】	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコベトナム 【※10】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エニシアス 【※12】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●
OEC 【※13】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●
子会社総数	10	10	9	10	10	10	11	11	10	11	11	11	12	12	12	12	12	13	13	13

- 【※1】 2017年9月25日付で「科礼斯軟件(上海)」は清算結了
- 【※2】 2017年10月2日付で「アイオス」は「(株)アプリケーションズ」を子会社化 (当社の孫会社)
- 【※3】 2018年1月12日付で「(株)ネクサス」を子会社化
- 【※4】 2018年3月12日付で「メディア・マジック」は「メクゼス」に商号変更
- 【※5】 2018年4月1日付で「メクゼス」は「アイオス 関西営業所」を統合
- 【※6】 2018年4月1日付で「アイオス」は「アプリケーションズ」を統合
- 【※7】 2018年10月1日付で「アルス(株)」を子会社化
- 【※8】 2018年11月1日付で「アイオス」は「イーテクノ(株)」を子会社化 (当社の孫会社)

- 【※9】 2019年4月1日付で「クレスコ九州」を統合
- 【※10】 2019年9月17日付で「CRESCO VIETNAM CO., LTD.(クレスコベトナム)」を設立 (営業開始は2019年10月1日から)
- 【※11】 2019年10月1日付で「アイオス」は「イーテクノ」を統合
- 【※12】 2020年4月1日付で「(株)エニシアス」を子会社化
- 【※13】 2021年7月1日付で「(株)OEC」を子会社化
- 【※14】 2022年5月1日付で「クリエイティブジャパン」は「クレスコ・デジタルテクノロジーズ」に社名変更

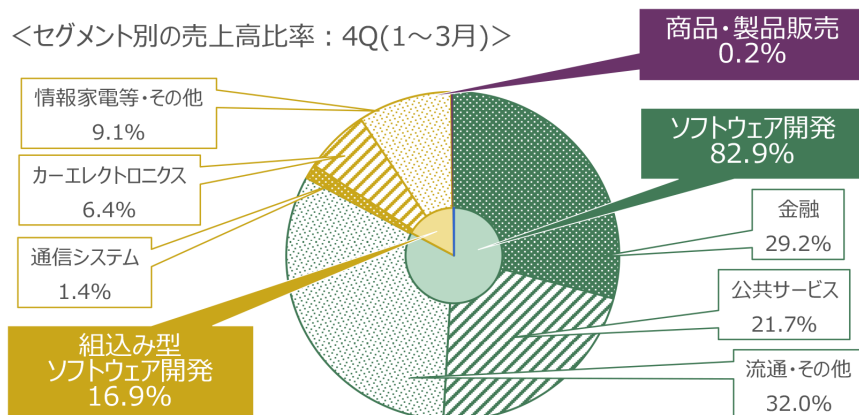
2021年4月(2022年3月期)に、報告セグメントを変更しました。

2021年5月10日発表

https://www.cresco.co.jp/news/newsr/2021/210510_ir.pdf

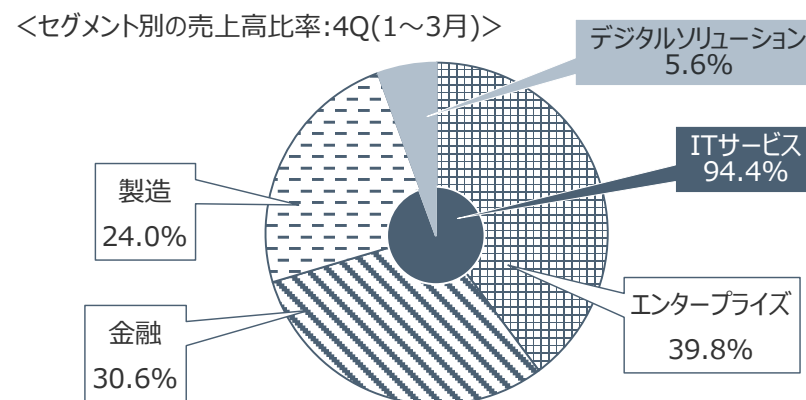


旧セグメント： 2021年3月期 第4四半期



セグメント	事業	サブセグメント
ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスアプリケーション開発 ・IT基盤システム構築 ・オリジナル製品・サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・金融 (銀行、保険、カード、証券 etc.) ・公共サービス (旅行、人材、物流、航空、鉄道、電力、放送、医療 etc.) ・流通・その他 (小売、不動産、情報通信、製造 etc.)
組込み型ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・組込型ソフトウェア開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信システム (携帯情報端末 etc.) ・カーエレクトロニクス (デジタルメーター、センターディスプレイ etc.) ・情報家電等・その他 (デジタル家電、医療機器、制御システム etc.)
商品・製品販売	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社「クレスコワイヤレス」の商品・製品販売 	

新セグメント： 2022年3月期 第4四半期



セグメント	事業	サブセグメント
ITサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・コンサルティング ・IT企画 ・開発・保守の総合サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・エンタープライズ (情報・通信、広告、流通サービス、運輸、人材紹介・人材派遣、公共、資源・エネルギー、建設・不動産、旅行・ホテル、医療・ヘルスケア、その他) ・金融 (銀行、保険、その他) ・製造 (自動車、輸送機器、機械、エレクトロニクス、その他)
デジタルソリューション	顧客のDX実現を支援する製品・サービスからなるソリューション群	「Creage」、 「インテリジェントフォルダ」、 RPA 等

ご参考 3) 経営ビジョンと中期経営計画の詳細URL



「経営ビジョン」の詳細
<https://www.cresco.co.jp/corpinfo/vision/>

【注】コーポレートロゴ変更に伴い、イメージ画像を変更しました。内容に変更はありません。



「中期経営計画2023」の詳細
<https://www.cresco.co.jp/ir/plan.html>



免責事項等

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値や将来展望は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業況や業績結果と大きく乖離するなど、本資料の内容と異なる可能性もございます。予めご了承ください。

【 IRのお問合せ】
広報部 Mail : ir@cresco.co.jp
TEL : 03-5769-8058